

令和3年度の取組状況に対する点検シート

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化									
★ ①救急医療(初期・二次)の強化	①川崎病院との連携による平日日勤・準夜帯の救急受入体制強化 ②職員の意識啓発に努め、救急搬送及びウォークイン患者の非応需率低下に向けた取組の推進 ③救急医療における院内トリアージの強化	中期計画	救急自動車搬送受入台数	2,392件	-	-	199件	2,193件	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保のために一般病棟の一部をコロナ専用病床としたことなどにより、一時的に救急車応需数は低下しましたが、令和3年度の救急車の応需数は約200件増加し、2,392件となりました。 ①重症患者や救急科が対応すべき入院適応患者について、川崎病院と連携して受入れを行い、そのためのツールとして、直通の川井田ホットラインを設置しました。 ②③日勤～準夜帯にかけて、研修医の救急教育をおこなうとともに、診療科の当直医と協力し診療することにより、診療中の患者の診療科を超えた引き継ぎがより円滑になりました。 【今後の方向性】 ・令和4年7月から中原区2次救急当番制(試行)を開始し、働き方改革の観点からも効率的な救急医療の運営を進めてまいります。 ・市立川崎病院との連携を強化し、引き続き「断らない救急」を目指してまいります。 ・引き続き全ての取組を推進します。
		中期計画 総合計画	救急患者数	7,964人	9,200人	86.6%	711人	7,253人	
②災害医療機能の維持	①災害協力病院として災害医療対応能力の更なる向上と全職員の役割発揮を図るための災害医療訓練の実施 ②災害用備蓄品の計画的な入替えの実施 ③災害発生時の医療強化に向けたDMAT-L隊員の育成	中期計画	災害拠点病院と連携した災害訓練の実施	実施	-	-	-	実施	【取組内容の状況と成果の分析】 ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、大規模な訓練は行えていませんが、外部機関との定期的な通信訓練のほか、災害時医療等委員会内で机上訓練を実施し、対応について協議を行いました。 ②災害用備蓄品は期限に応じて適宜入れ替えを行い、常時3日分を確保しています。 ③DMAT及びDMAT-L隊員養成研修については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で延期しました。 【今後の方向性】 ・当院は、神奈川県から令和4年7月1日に大規模災害時の医療救護活動の拠点となる災害拠点病院として指定を受けました。引き続きすべての取組を推進するとともに、災害時に他の災害拠点病院、災害協力病院等と連携、協力して医療を提供する役割を担ってまいります。
		中期計画	食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量	3日分	-	-	-	3日間分	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充									
★ ①地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	①対策型検診と任意型検診の受診促進に向けた活動と受入調整 ②県内のがん拠点病院で構成する協議会、部会に出席・情報交換 ③がんサロン、ピアサポート、患者力を考える会等の実施	中期計画 総合計画	がん登録数 (報告値)	1,254件	1,300件以上	96.5%	-191件	1,445件	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・院内がん登録システムを活用し、登録対象を効率的に見つけ出し、作業を行いました。 ・内視鏡治療件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えにより、目標値を達成できませんでした。 ・がん手術件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、手術の実施件数は減少していますが、地域がん診療連携拠点病院の指定要件である年間400件以上を達成するとともに、ほぼ昨年度並みの件数を確保できました。 ・ロボット支援下での新たな術式(膀胱全摘術)や、周囲の臓器に影響を及ぼさず、高い精度で病巣のみを治療することができる高精度放射線治療システムを導入するなど、がん診療の内容充実を図りました。 ①コロナの影響による受診控えで、検診者数が減少していましたが、延期していた方に電話等で説明を行い、検診者数の増加に努めました。 ②神奈川県がん診療連携協議会(7月・3月)及び薬物療法部会(9月・3月)・相談支援部会(6月・2月)・クリティカルパス部会(2月)にオンライン会議で出席し、県内のがん診療連携拠点病院と情報を共有しました。 ③新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、開催を見送りました。 【今後の方向性】 ・内視鏡治療件数については、引き続き市民公開講座や出前講座等による啓発活動に取り組み、症例確保に取り組んでいきます。 ①本年7月に開設したがん・総合健診センターにおける健診強化の一つとして、肺がんのCT検査などの精度の高いがん検診を実施していきます。 ②引き続き取組を推進します。 ③令和4年度から新型コロナウイルス感染症に配慮した、オンライン形式のがんサロンを開催します。
		中期計画	内視鏡検査件数	5,611件	-	-	352件	5,259件	
		中期計画 総合計画	内視鏡治療件数	620件	720件以上	86.1%	112件	508件	
		中期計画	がん手術件数	459件	-	-	14件	445件	
		総合計画	がんサロン開催数	0回	22回	0%	0回	0回	
②緩和ケアの推進	①緩和ケア内科の医師を確保し、緩和ケアの外来、入院、在宅、救急ニーズへの適切な対応 ②緩和ケア内科の初診を円滑に受けられるよう調整 ③在宅緩和ケアの積極的実施・充実強化 ④地域医療従事者を対象に緩和ケア研修会を開催し、緩和ケアの普及・啓発の実施	中期計画 総合計画	緩和ケア患者の 受入人数	546人	552人以上	98.9%	57人	489人	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・緩和ケア患者の受入人数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えや面会制限等により、入院を控え自宅での療養を選択する患者や患者家族が多かったため、上半期は伸び悩みましたが、緊急事態宣言が終了した下半期は前年比増が続き、ほぼ目標値を達成しました。 ①緩和ケア内科の医師確保が厳しい中で、医療の質を落とすことなく継続し、外来・入院・在宅・救急ニーズに院内全体で取り組みました。 ②緩和ケア内科の初診の枠を増やし、緩和ケア相談を積極的に受け入れられました。 ③緊急の住診導入や在宅看取り等の困難ケースを積極的に受け入れ、体制の充実強化を図りました。 ④緩和ケア研修会はeラーニング受講が可能となり、ワークショップ中心の研修会を川崎病院と共催しました。 【今後の方向性】 ・緩和ケア内科の医師を安定的に確保することで、外来・在宅・救急のニーズに24時間対応できる診療体制を継続的に維持できるよう、今後取組みを継続します。 ・緩和ケア患者の受入人数については、スクリーニングの強化やリンクナースの協力を得て、介入件数が増加するように努め、受入数確保に取り組んでいきます。 ①②④引き続き取組を推進します。 ③引き続き緩和ケア病棟と在宅部門との連携を強化し、在宅支援につなげていきます。
		中期計画 総合計画	訪問診療件数	1,214件	1,700件以上	71.4%	2件	1,212件	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実									
①チーム医療の推進	①緩和ケアチームによる症状緩和、カウンセリングなどの総合的な支援の実施 ②緩和ケアの研修及び教育の実施 ③神奈川県がん診療連携協議会・緩和ケア部会、学会などへの参加及び協力 ④緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームによる定例介入の実施 ⑤NST専従、専任者研修をはじめとしたスタッフの充実、研修及び教育	中期計画	緩和ケアチームによる症状緩和実施延べ患者数	239人	-	-	-190人	429人	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームによる症状緩和実施延べ患者数及び栄養サポートチーム回診延べ患者数については、新型コロナウイルス感染症の影響による病床編成の変更に伴う入院患者数の減少により、前年度と比較してそれぞれ減少しました。 ①1日10名前後のがん・非がん患者の全人的苦痛への症状緩和に対し支援を実施しました。 ②新型コロナウイルス感染症への感染予防対策を実施し、緩和ケアスキルアップフォローアップ研修会を5月に実施しました。 ③神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会（11月）にオンライン会議で出席し、県内のがん診療連携拠点病院と情報を共有しました。 ④新型コロナウイルス感染症の影響による病床編成の変更に伴い、入院患者数は減少しましたが、栄養サポートチームの介入数は昨年度比で増加しました。また、緩和ケアチームの介入数は昨年度比で減少しました。褥瘡対策チームについては、発生患者に対し早期から介入することができました。褥瘡院内発生件数は、入院患者数の減少に伴って減少しました。 ⑤本年度は専任者研修に薬剤師1名が参加しました。スタッフの教育については、緊急事態宣言の状況により対象者を調整したうえで勉強会を開催しました。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①③⑤引き続き取組を推進します。 ②今年度は全5回実施予定です。 ④緩和ケアチームについては、診断期からの介入や緩和ケアのスクリーニングの推進に取り組んでいきます。栄養サポートチームについては、引き続きチームの教育を行いながら、リンクナース、緩和チーム、嚥下チームなどと協力し、栄養サポートを行っていきます。褥瘡対策チームは、リンクナースの育成を図り、日々の予防的介入の質が向上するよう取り組んでいきます。
		中期計画	栄養サポートチーム回診延べ患者数	1,075人	-	-	-15人	1,090人	
		中期計画	褥瘡院内発生件数	57件	-	-	-2件	59件	
★ ②成人疾患医療の充実	①糖尿病教育入院の着実な実施 ②認定看護師を中心とした外来からの生活指導と療養支援の強化（禁煙外来・フットケア外来・在宅酸素外来など）	中期計画	糖尿病教育入院実患者数	37人	-	-	2人	35人	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門外来は在職医師の資格等にも影響を受けるため、設置数は減少しました。 ・患者の医療ニーズに合わせた支援を行うとともに、患者一人一人に寄り添った診察となるよう配慮しました。 ①1週間及び2週間の2種類のコースを行っており、期間外でも全身精査、合併症評価、糖尿病教育と血糖コントロールと並行して行うよう準備しました。 ②認定看護師と外来看護師を中心に生活指導や療養支援を行い、フットケア外来236件、がん看護外来396件、禁煙外来46件を行いました。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今後は血糖コントロールと、糖尿病に対する教育を並行して入院中に行う患者を増やす取組みを推進します。 ②引き続き取組を推進します。
		中期計画	専門外来の設置数	23	-	-	-5	28	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進									
①地域医療連携の推進	①地域の医療機関・関係機関への訪問の強化 ②診療科の紹介冊子の作成 ③地域連携の会の開催または代替案の検討 ④紹介状に対する返書の徹底 ⑤地域の医療従事者向け研修会の開催 ⑥在宅療養後方支援病院としての広報活動の強化	中期計画	地域医療支援病院の承認	取組の継続	-	-	-	取組の継続	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症の患者受入による不急の手術停止や入院制限の影響を受け、紹介患者数は減少しました。 ・地域医療支援病院の承認については、要件となっている紹介率50%以上、逆紹介率70%以上を目標に紹介・逆紹介の取組みを推進しました。 ①コロナの感染拡大対策により訪問を控えていましたが、10月から各診療科部長と開業医訪問を再開しました。 ②最新の状況に更新して作成し、開業医訪問または地域医療部への来客があった際に配布しました。 ③今年度も地域連携の会の代替案として、診療科及びコロナへの対応を紹介したDVDを作成し、連携登録医あてに送付しました。 ④返書が必要な患者の抽出方法及び医師への記載依頼について検討しました。 ⑤10月から地域の医療従事者向けの研修会を実施しました。 ⑥ホームページへの掲載、介護事業所訪問時に制度概要のチラシを持参し、周知を行いました。 【今後の方向性】 ①各診療科の医師と共に開業医訪問等を実施し、患者確保に努めていきます。 ④逆紹介率の向上に向けて、医師に対して返書管理等の呼びかけを行なっていくとともに、地域医療支援病院や紹介受診重点医療機関の承認を目指します。 ②③⑤⑥引き続き取組を推進します。
		中期計画	紹介率	56.0%	-	-	-1.5%	57.5%	
		中期計画	逆紹介率	68.3%	-	-	5.5%	62.8%	
		中期計画	検査機器の共同利用件数	319件	-	-	-135件	454件	
		総合計画	紹介患者数	5,135人	6,590人以上	77.9%	-513人	5,648人	
★ ②医療依存度の高い患者に対する在宅医療の提供	①がん末期、医療依存度の高い患者に対して、退院の時期を逸さないために、当院からの訪問診療導入のコンサルテーション機能の充実 ②症状悪化時の緊急往診の受入れだけでなく、家族に対してのメンタルケアの充実 ③病棟看護師による退院前後訪問の推進 ④地域医療部・病棟・外来の連携強化による退院支援の充実	中期計画	医療依存度が高い患者に対する往診患者実数	179人	-	-	10人	169人	【取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症の影響による面会制限もあり、在宅看取りを希望する患者家族が増え、医療依存度が高い患者に対する往診患者実数が増加しました。その結果、急変時には当院への24時間受入体制を望む患者や患者家族も増加し、24時間連携登録医からの受入患者数も増加しました。 ①がん相談員及び在宅部門、退院調整看護師等が早期に患者情報を共有し、訪問診療の導入についてコンサルテーションの充実に努めました。 ②緊急往診時には、患者だけでなく介護している家族へのわかりやすい病状説明を心掛け、疑問や不安などを傾聴し、メンタルサポートに努めました。 ③医療機器の導入や医療処置の必要な患者には、病棟で担当した看護師と共に退院前後訪問を実施しました。 ④入院が決定した患者に対し、外来看護師と地域医療部入院支援看護師が連携し、入院に対する不安や自宅での生活状況等を聴取し、病棟看護師と共有し、入院前からの退院支援に努めました。 【今後の方向性】 ①医療依存度の高い患者の在宅での過ごし方等、患者やその家族の思いを尊重し、個性のある対応が必要になるため、引き続き退院調整カンファレンス等を開催するなどの支援に努めていきます。 ②～④引き続き取組を推進します。
		中期計画	24時間連携登録医からの受入患者数	368人	-	-	135人	233人	

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進									
③地域包括ケア病床の整備と運営	①地域包括ケア病床の充実 ②院外からの積極的な患者受入体制の構築 ③円滑な病床運営のための課題抽出及び対策の検討 ④多職種による患者受入会議の定期的開催	中期計画	地域包括ケア病床の整備	継続	-	-	-	継続	【取組内容の状況と成果の分析】 ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更により、8月25日から病棟閉鎖を行ったため、病床利用率は低く推移しました。 ②新任の地域包括ケア病床の関係者等を対象に、病棟の運用に関する勉強会を開催しました。 ③④毎週火曜日に行っていた多職種による地域包括ケア病棟運営会議を病棟カンファレンスに変更し、リアルタイムで転棟候補者を把握し、病床運営のための課題抽出及び対策の検討を行いました。 【今後の方向性】 診療報酬改定に伴う対応として、一般病棟からの転棟患者割合6割未満の達成を目指すともに、他病院等からの受け入れを増やす等、引き続き全ての取組を推進します。
		中期計画 総合計画	地域包括ケア病床の病床利用率	52.4%	85.0%以上	61.6%	-21.1%	73.5%	

<外部評価> 委員会委員による意見等

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(1) 人材の確保と育成の推進									
★ ①医療従事者の確保	①採用選考の適切な実施による優秀な初期臨床研修医、専攻医の確保 ②大学医局等との連携による常勤医の確保 ③看護師確保のための学校訪問やインターンシップ、看護師等医療技術職の学生実習の受入 ④院外における就職説明会・学校訪問の積極的な参加 ⑤診療科特性に応じた保険委員会・DPC委員会の開催による診療報酬請求事務の強化及び専門能力の向上	中期計画	職場に対する総合的な職員満足度〔職員満足度調査〕	40.1%	-	-	3.1%	37.0%	【取組内容の状況と成果の分析】 ・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。 ①臨床研修医の採用選考を8月に2日間実施し、過去最高の35名の応募がありました。専攻医については昨年度応募がありませんでしたが、今年度は1名の応募がありました。また、医学部生による病院見学は71名が参加しました。 ②大学医局等との連携や採用選考の適切な実施により、職員の確保に努めました。 ③新型コロナウイルス感染症の感染予防を行い、学生実習を3校受け入れました。また、インターンシップについては、病院内への立ち入りが難しいため中止していますが、病院見学会は現地開催4回、Web開催7回の計11回実施し、185名が参加しました。 ④学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、パンフレットの送付を中心に行いましたが、訪問受け入れ可能な学校のみ13校訪問しました。 ⑤全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識向上に努めました。 【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進します。
		中期計画	レセプト査定率	0.15%	-	-	-0.04%	0.19%	
②職員の専門能力の向上	①人材育成計画に基づき各種研修会、講習会を開催 ②情報セキュリティ個人情報保護研修を含めた倫理研修の開催 ③認定看護師の育成及び特定行為研修（在宅ケアプラン）への派遣 ④在職医師へ臨床研修指導医講習会受講の奨励	中期計画	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	54.1%	-	-	1.0%	53.1%	【取組内容の状況と成果の分析】 ・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。 ①人材育成計画に基づき病院局が主催する集合教育と看護部教育委員会等が計画する研修や講習会を開催し、専門職として常に最善のケアを提供するための知識・技術・態度の向上に取り組みました。 ②新規採用職員に対して、情報セキュリティ個人情報保護研修を含めた倫理研修を実施しました。 ③認知症ケア認定看護師養成学校へ1名派遣しました。 ④臨床研修指導医講習会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から開催していませんでしたが、リモートで実施する機会があったため、今年度は1人受講することができました。 【今後の方向性】 ①引き続き取組を推進します。 ②今後は、特定分野における認定看護師の育成に努めていきます。 ③今後は、若手医師を中心に指導医確保に努めていきます。
		中期計画	認定看護師の人数	20名	-	-	1名	19名	
		中期計画	研修医1人あたりの指導医数	3.5名	-	-	-0.3名	3.8名	
③働きやすい職場づくり	①医師事務作業補助者の増員や病棟薬剤師の配置など多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアリングを積極的に推進 ②会計年度任用職員の任用などによる退職や産休・育休等に伴う欠員の減少	中期計画	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	51.1%	-	-	4.3%	46.8%	【取組内容の状況と成果の分析】 ・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。 ①医師の事務作業量の軽減を図るため、医師事務作業補助者の採用を積極的に行い、20名を確保しました。確保した医師事務作業補助者を適正に配置することで、医師の業務負担軽減に努めました。また、病棟薬剤師については、1病棟に配置しました。 ②会計年度任用職員の採用については、ハローワークやホームページ、各種広告媒体を活用して確保に努めました。 【今後の方向性】 引き続き医師事務作業補助者を含めた会計年度任用職員の募集、採用を積極的に行い、業務内容の拡充及び業務範囲の拡大、退職や産休・育休等に伴う欠員の状況に応じて必要な体制確保を目指していきます。病棟薬剤師については、さらに1病棟に追加配置したところです。

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(2) 医療安全の確保・向上									
○医療安全・院内感染対策の推進	①医療事故防止対策・感染防止対策を推進し医療の質を確保 ②施設基準「医療安全対策加算1」、「感染防止対策加算1」、「抗菌薬適正使用支援加算」の届出継続を維持 ③医療安全対策・感染対策について、職員向け研修会の開催	中期計画	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)	-	-	-	届出(継続)	【取組内容の状況と成果の分析】 ①インシデントは1,844件、アクシデントは5件の報告がありました。また、他院との医療安全対策相互評価を10月に行いました。 ②研修会や感染防止対策加算1-1ラウンド、1-2カンファレンス等も計画通り実施しました。医療安全対策に係る適切な研修を修了した専従の看護師、薬剤師その他の医療有資格者を医療安全管理者として配置しました。 ③全職員対象の安全研修は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、ビデオ研修として開催しました。また、新型コロナウイルス感染症を含めた様々な院内感染対策の取組を、研修会やポスター掲示等を通して啓発しました。 【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進します。
取組項目(3) 患者に優しい病院づくり									
★ ○市民に信頼される医療の提供と分かりやすい情報の発信	①市民公開講座・出前講座など市民向け啓発活動の推進 ②病院モニター会議の開催 ③外来休診情報の公開などホームページを活用した患者さんへの積極的な情報発信	中期計画 総合計画	入院患者満足度	92.7%	91.3%以上	-	3.1%	89.6%	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・入院患者満足度は7月6日から8月31日まで、外来患者満足度は7月12日から14日まで実施しました。 ①市民公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、病院内で開催することを見送ったため、事前に収録した動画をホームページに掲載し、Web市民公開講座を開催しました。また出前講座については、新型コロナウイルス感染症の感染対策をテーマに、病院ホームページ等で実施施設を募り、応募があった施設に看護師等を派遣して開催しました。 ②第5期病院モニター会議を書面開催により1月に開催しました。 ③ホームページに新型コロナウイルス感染症関連の専用ページを作成し、積極的な情報発信を行いました。 【今後の方向性】 ①今後もWeb市民公開講座等を開催し、市民の健康増進に寄与していきます。 ②③引き続き取組を推進します。
		中期計画 総合計画	外来患者満足度	87.4%	82.6%以上	-	2.2%	85.2%	
		総合計画	市民公開講座等開催数	22回	12回	183.3%	14回	8回	

<外部評価> 委員会委員による意見等

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進									
★	①目標管理制度の活用による定期的な診療収入増加に向けた取組状況の確認 ②入院診療単価を引き上げるために、要手術患者の入院増加、平均在院日数の短縮 ③弁護士を活用した滞納債権回収の強化 ④午前退院・午後入院の促進など適切なベッドコントロールの実施及び地域包括・一般床・緩和・救急後方の各病棟における適正なベッド管理	中期計画	医業収益の額	71.5億円	-	-	-6.3億円	77.8億円	【取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、市内唯一の結核病床を用途転換するなど、県下最大規模となる92床の専用病床の整備・拡充を行い、延6,235人の陽性患者の入院受入れを行うとともに、病院の敷地にテントによる発熱者専用の外来を設置して感染疑いの患者に対応したほか、感染有無の確認のための院内検査体制の拡充など、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組みました。 ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更により、患者数が減少したため、入院・外来収益ともに減収となりました。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更を行いました。手術件数については昨年度より回復してきており、在院日数については、患者数の減少の影響もあり、例年より短縮しました。 ③未収金対策については、未収発生から早期の段階で電話催告、文書催告を実施するなどきめ細かい対応を行いました。さらに弁護士を活用することにより、効率的に滞納債権の回収に取り組みました。 【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進するとともに、健診強化の取組としてがん・総合健診センターを開設し、患者数の確保に努めます。手術につながる症例や救急患者など急性期症例の確保に努め、リハビリテーションを強化していきます。 ※病床利用率は一般病床を基準としたもの
		中期計画	入院患者1人1日当たり診療収入(入院診療単価)	53,936円	-	-	5,170円	48,766円	
		中期計画	外来患者1人1日当たり診療収入(外来診療単価)	17,869円	-	-	-1,141円	19,010円	
		中期計画※	病床利用率(許可)	61.2%	-	-	-5.0%	66.2%	
			病床利用率(稼働)参考)	69.3%					
取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進									
★	①各所属における医療機器保守業務委託の仕様見直し及び契約額の削減 ②川崎病院との材料購入に関する情報交換・共同購入による経費節減の実施 ③無駄な在庫を持たないよう効率的な在庫管理を図り、経費節減の実施	中期計画	職員給与費対医業収益比率	77.6%	-	-	6.4%	71.2%	【取組内容の状況と成果の分析】 ①既存の保守契約については、契約内容及び仕様を見直し、保守対応時間の変更、点検回数・オプションの削減等を行うことで、複数の契約で契約金額を削減しました。また、新規の保守契約を検討する機器については、最低限の仕様に抑制し、それ以外の機器は都度修理対応とすることで費用の削減に取り組みました。 ②診療材料の購入については、川崎病院との情報交換、ベンチマークシステムの活用や、外部委託業者と連携した価格交渉を行いました。新型コロナウイルス感染症による診療材料への影響が続く中で、同等品の採用等により欠品が生じないよう診療材料を確保するとともに、購入金額を可能な限り抑えるよう取り組みました。また、少量のみ必要な物品等については、川崎病院から融通してもらうなど、共用化の取組を行いました。 ③昨年に引き続き、SPD(院内物流管理受託業者)と共同で年2回、倉庫から払出後の使用状況に関する実地検査を実施し、使用期限の確認や各所属への注意喚起を行いました。払出しの定数については随時見直しを実施するとともに、一定期間動きがない定数設定については削除を進めました。 【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進するとともに、非常勤医師の採用状況や時間外勤務の実態の検証及び改善等を図ります。
		中期計画	委託費対医業収益比率	18.2%	-	-	0.9%	17.3%	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(3) 経営管理体制の強化									
-	①全職員を対象とした経営情報の発信及び病院の運営方針に関する説明会の開催 ②診療科等に対する経営に関するヒアリングの実施 ③病院経営戦略会議の定期開催	中期計画	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	18.9%	-	-	-1.7%	20.6%	【取組内容の状況と成果の分析】 ・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。 ①年度当初、全職員を対象に、病院長による「病院運営方針等説明会」を開催し、今年度の病院としての重点取組項目（「新型コロナウイルス感染症対策」「がん診療の推進」「在宅療養支援の推進」「2次救急医療の体制強化」「地域医療連携の推進」「医療の質の向上」「井田病院の特色・強みの強化」）について周知しました。 ②診療科やメディカルスタッフ部門等を対象とした、病院長等幹部職員による経営や病院運営に関するヒアリングを実施しました。 ③本庁部門と各病院三役等が出席する経営会議を定期的に開催しました。 【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進するとともに、病院独自で経営戦略を考え、病院長等によるヒアリングを強化し、予算作成への関与など、経営意識の涵養に努めます。職員による経営参画のためのワークショップの開催を検討します。
		中期計画	経営会議開催数	11回	-	-	-1回	12回	

<外部評価> 委員会委員による意見等